

## 令和4年度 第2回滝沢市環境審議会 会議録

開催日時	令和4年10月5日（水）14時から16時まで			
開催場所	滝沢市役所4階 中会議室			
環境審議会委員	職名	氏名	出席	欠席
	会長	豊島 正幸	出席	
	副会長	百目木 忠志	出席	
	委員	工藤 恒夫	出席	
	委員	下河原 一眞	出席	
	委員	中島 清隆	出席	
	委員	民部田 健一	出席	
	委員	渡邊 美香子	出席	
	委員	高橋 弘美	出席	
	委員	皆川 千里	出席	
		9人	9人	0人
事務局	市民環境部	部長 久保 正秋		
	市民環境部環境課	課長 田沼 政司		
		総括主査 武田 憲昭		
		主査 吉田 拓矢		
傍聴者の有無	なし			
会議記録の方法	詳細記録			
議事	第1号議案（報告案件）・第一次滝沢市環境基本計画素案について			
内容				
久保部長	久保市民環境部長より挨拶			
豊島委員（会長）	豊島委員（会長）より挨拶			
事務局・田沼	続きまして、委員の皆様の自己紹介をお願いします。			
各委員	各委員より自己紹介			
環境課長	続いて市役所職員の紹介もさせていただきます。			
各職員	環境課長読み上げによる自己紹介。			
事務局・田沼	さて、滝沢市環境審議会規則第4条第1項の規定では、「会長は、必要に応じて審議会の会議を招集し、会議の議長となる」とされておりますので、ここからの議事進行は、豊島正幸会長に会議の議長をお願いしたいと思います。			
豊島委員（会長） 以降、豊島会長 と表記	お手元の資料、バージョン1.1の資料についてです。 前回の素案に付け足されている部分があります。特に後半のほうに第四章として「重点プロジェクト」がおまけのように付け足されている。また前回と違って少し具体化したのが、「成果指標」「進行管理指標」というのが、とりあえず項目として並んでいる。 ただ、これらも事務局の話によると、現在、各担当部署にこれでい			

	<p>いかどうか確認している最中であり、各担当部署の意見が集約されている訳ではなく、とりあえず、コンサルが例示として表示しているものと受け止めていただきたいとのこと。</p> <p>前回と違うのはこれらの点です。</p> <p>それでは、この素案について、事務局から何か説明は？</p>
事務局・田沼	<p>計画そのものは、コンサルに計画策定のお手伝いをしてもらっています。また、素案の内容につきましては、申し訳ありませんが、まだ庁内の調整をとれたものではありません。今現在、集約作業中でございます。</p> <p>また、過日開催した進行管理委員会においても厳しいご意見を頂戴しており、それらを踏まえながら今後の対応を考えていかななくてはならないと考えております。</p> <p>では、詳細につきましては、担当者よりご説明申し上げます。</p>
事務局・武田	<p>～「第一次滝沢市環境基本計画素案バージョン1.1」について、前回審議会から追加になった、P35～P84について説明し、加えて事前に頂戴していた豊島委員・渋谷進行管理委員からの指摘事項について説明。～</p>
豊島会長	<p>会議の時間について16時を目途としたいと思います。</p> <p>それでは、いままで事務局から説明のあった点について、いろいろ様々気が付く点があります。皆様の職等、お立場でお気づきの点などお聞かせいただきたい。</p> <p>ただ、その前に一つだけ共通認識を持ちたいと思っていることがある。それは「滝沢ってどういう土地なんだ？」ということ。素案資料でいえばP8。「滝沢市の地勢」の部分について、滝沢の環境を考えるうえで、土台となる部分。しかしここにあるのは、どこから持ってきたか分からない一般論（※出典は滝沢市HP行政概要）であって響かない。「滝沢ってこんなもんじゃないぞ！」という思いから、先ほどの私の意見「滝沢市の地勢」の部分になった。少し解説させていただく。（以降、滝沢地勢に関する意見部分の解説）</p> <p>それでは、皆様のご意見を頂戴します。</p> <p>まずはP38の一番左側、「環境の将来像」について、大変大事な部分です。皆様、いかがでしょうか？</p> <p>あくまでもこれは「たたき台」であり、この部分は後半の「重点プロジェクト」に大きく影響します。P39の右端に「付け足し」のように書いてある黄色いところが重点プロジェクトのようです。まあ、この置き方だと全然重点化しているとは見えない。この中身は何かというと、P74から「おまけ」のように書かれている部分になります。現在のたたき台には3つ重点プロジェクトが書かれている（以下、3プロジェクトを読み上げたうえで）。これでいいのか？これでいい</p>

	<p>なら、これを象徴するような「将来の環境像」の文言。これを整えていかななくてはならない。「環境の将来像という表現」と「重点プロジェクト」の中身は同時並行的に議論して固めていくべき。</p> <p>今回の会議では、この点を第一に考えております。皆さんからご意見を頂戴します。まずは「環境の将来像」についてですが、ご意見伺います。</p>
工藤委員	<p>数ある施策の中から、ここに書いている3つの重点プロジェクトについて、なぜこれら3つを選定したかの理由がかかれていない。私はその理由がわからなかった。この点お聞きします。</p>
豊島会長	<p>確かに重点プロジェクトの選定理由はどこにも全くかかれていません。事務局はどう考えているのか？</p>
事務局・武田	<p>正直、「たたき台」としてお出しした。</p> <p>コンサルと一緒に現在の「はやりすたり」を意識して出した部分がある。ただ、プロジェクト1の「エネルギーの域内循環の仕組みづくり」については、「自分たちの区域内で発電したエネルギーは自分たちで消費するのが理想的」という観点でみて、事務局の共通認識としてもってきているのが正直なところ。</p> <p>プロジェクト2と3については、コンサルとの話の中で、事務局承認のもと、取り急ぎ「たたき台」としてもってきた部分である。</p>
工藤委員	<p>であれば提案だが、P16以下に従来の基本計画に対する取組状況が書かれてある。この中で、A～Dで評価されているが、この評価内容が新計画案には反映されていないので、C～Dのほとんど達成されていないものを重点プロジェクトとして考えるのも一つの手法ではないか？</p>
事務局・田沼	<p>先ほど事務局から説明したとおり、進行管理委員会（9/29）にて渋谷先生から「重点プロジェクト、見直したほうがよい」とのご意見を頂戴しています。事務局にて、盛岡市、岩手県と比較してみたところ、盛岡市の概要版が出ているが、P4の第4章分野横断的施策という欄が、私どもの重点プロジェクトにあたる部分と考えますが、「経済」「地域」「暮らし」の分野ごとに掲載している。私どもの素案表記は「わかりにくい」とのお叱りも頂戴しているものですから、こういった「項目」をたてて「項目に準ずるもの」を拾い上げることで重点プロジェクトの組み換えをさせていただこうと考えています。</p>
豊島会長	<p>工藤委員の意見、P16以下の評価の活かし方、吸い上げ方については？</p>
事務局・田沼	<p>そういった吸い上げ方についても、「項目」「項目に準ずるもの」を拾い上げと「反映」で対応します。例えば「ごみ減量化」についてはC評価な訳ですが、「経済、地域、暮らし」それぞれに組み替えて、昨年度までの実態を踏まえ、悪かったところを改善、対応出来るよう、</p>

	対応していきたい。
豊島会長	そうすると、重点プロジェクトの内容云々はともかくとして、工藤委員のいう現行計画での評価の芳しくないところは、新計画の重点プロジェクトに「吸収・繁栄させていく」ということでよろしいか？
事務局・田沼	はい
豊島会長	工藤委員、よろしいですか？
工藤委員	はい、ありがとうございます。
豊島会長	他にいかがでしょうか？
中島委員	<p>はい、では、先ほどのご質問については、P 74で「滝沢市の目指す環境の将来像」に向けて、3つのキーワードとして示しましたという旨が書かれている。つまり「環境の将来像」が決まらないと次の重点が決まらないということ。そうするとこの3つの重点プロジェクトがどう関係していくかということが基本決まらないということですね。</p> <p>で、どちらが先かという話にはなるが、最終的には繋げるようにしないといけないので、どちらが先でも後でもいいのですけれども、そういった状況を考えると豊島会長がおっしゃられたように、P 38～P 39、一番左側の「環境の将来像」の部分について、どういうふうな表現にしていくかということになる。</p> <p>あと、「重点プロジェクト」という話なので、先ほどのご説明ですとP 39に「基本的施策」があって、「取組の方向性」があって「施策の中にいろいろな取り組み」があって、「事業」があって、その中に「ここに重点をおきますよ」ということであれば、重点、横断的プロジェクトとして、「ここは重点的にしていく」とか「ここは優先的にしていく」「ここは横断的にしていく」というふうに表現していくのは一つの方法としてありだと思います。</p> <p>渋谷先生がご指摘の一番後のページで、P 74、「重点プロジェクトが各論すぎるので、もっと大きくりの政策にするべき」とのご指摘については、「基本的施策」の前に「プロジェクト」という名前がつくと基本的に施策体系ですから、「施策方針」が一番上にあって、「施策プログラム」が次、一番下に「事業・プロジェクト」があって、結局いまこの位置になってしまう。それを例えば盛岡市役所さんのように、「分野別横断的施策」ということにするのでしたら、「基本的施策」の前にもってくる。P 39だったら、「基本的施策」の左側に「縦断・横断的施策」のような形で持ってくるというような方法もあると思います。</p> <p>ただ、「じゃあ、そういうふうな施策を」という話になったときに、環境課さんだけのお話だけではなくてくるので、滝沢市役所庁内他部署との連携だとか調整が必要になるだろうし、たきざわ環境パー</p>

トナー会議だとか、今日ここにご出席頂いている皆様のような関係者との関わりだとかいったところでの「重点横断的な施策として持つてくるのが実現可能かどうか」といった判断が必要になる。そこは何を大事にするかということなので、「実現可能性」を重視すると「実現出来ませんでした」という言い訳が怖いので、あいまいにしがちだが、ここは、何を充実するかというのが大事だと思います。

もう一つ、「環境の将来像」をどう決めるかという話ですけれども、「基本目標」がすでに5つあって、P39にはないですが、P40以降に「基本的施策」の後に「施策の方向性」というのが割に詳しく書いてあります。この「施策の方向性」の部分に環境の将来像の表現がたくさんあると思います。これらを組み合わせて、「環境の将来像」というのを表現されるといいのかなと思います。

3つのプロジェクトでは、循環・共生・パートナーシップということをキーワードとしていますという話がありましたが、これらを織り込んで「環境の将来像」をつくるといいと思います。あとは、脱炭素と安全・安心というワードがここにはない。

そこで、考えてみたのですが、「地域資源循環を大切にしてい、安全・安心に暮らせ、岩手山麓の豊かな自然と共生し、未来に引き継ぐ脱炭素を目指すまち、たきざわ」だと5つ全部入ってくる。ただ、長いので特にP38にはまるかというとなかなか難しいですし、P36のほうはまだスペースはありますので、盛り込めるかなともいます。P36とP38は、同じものを載せないといけない。P38は簡略化したものを載せなくてはいけない。

ひとつ「基本目標」と「施策の方向性」から、基本目標やプロジェクトを実現することによって、滝沢市の環境が、例えば2030年に・2050年とか・2100年とかにどういう風になっていけばいいかというのを示すのがこの「環境の将来像」です。ただ二酸化炭素の削減を目指すとかいうのだと方法の話なので、そこは将来像にはそぐわないのではと思います。

まあ、いろんな考え方があって、何が重要かという点を考え決められればよろしいかと思います。

私以外は、皆様、滝沢市に深い関係がある方ですし、本当はもっと、パートナー会議もそうですけれども、これからを担う若い世代に、アンケート調査は出ていますが、イメージといったものを聞く機会がないと結局、東京都港区に本社のある業者さんが作られるのは、「はずさない」という意味では大事ですが、「たきざわらしさ」を出すという意味では、やっぱり滝沢市民だと思います。

P38、P39については、他の委員の皆様のご意見も参考にされるといいと思います。私からは以上です。

<p>豊島会長</p>	<p>中島委員からのご指摘は、P 3 9～P 3 9の表示の仕方についてのご指摘でした。少なくとも今の状態では何も伝わらないということです。</p> <p>それからもう一つ、今回重く受け止めたんですけれども、「脱炭素」というのは、これからの将来像を示す言葉ではなくて、「将来像を達成するための方法ではないか」というご指摘、これは「ガン！」とききました。世の中、「2050年、二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」という標語、これにみんななびいて、まあ、そうしないと政策達成出来ないからということなのだけでも、さらに、お金もそれに投じられるということですが、「脱炭素」が方法の一つであったとすると、それに私たちが、どういう環境の将来像を描きますかという、この文言がしっかりとひねり出されなければいけないという、目指す環境の姿ってなんだろうなという、その一つの方法が脱炭素であり、生き物の保全であり、何であり、何であり…言い方を変えると、そのレベルを超えたもう一つ上のレベルの表現が必要…そこはなんだろうねえ。そこが出てくれば、半分、環境基本計画は出来たんじゃないかと思います。</p> <p>まあ、この場でそれを煮詰めることはできないかもしれないが、これから先、環境審議会が何度かありますので、その会議を通して上位の表現が次に出されればいいな、と思っています。その将来像、私たちが何を目指しているのかについて、何か言葉、ありませんか？例えば「豊かに生きる」みたいな、そういう言葉になるのかな！？ここは少し時間をかけて、いろんな方の意見を聞きながら事務局としても知恵を絞って固めていってほしい。</p> <p>もう一つ付け加えると、先ほどのご意見、しっかりと施策のところを読み込んでいただいて、長くはなったが、並べ立てていただいた、これで網羅しているのでしょうか。ならば、次にやることは、そのうちのこれを大事にしましょうという重みづけ、これが重点だ、あるいは将来像を描く言葉に繋がっていくのではないのでしょうか。やるべきことは複数あるのだけれども、そのうち滝沢市として環境を考えると「これを大事にしよう」という重みづけで何が一番重いか、というそのあたり、じっくり考えていきたいと考えました。関連して、他の意見あればどうぞ。</p>
<p>民部田委員</p>	<p>素朴な質問で申し訳ないが、P 3 8の環境の将来像について、「鈴の音がこちよい」という文言が削除されています。理由は何ですか？先程中島先生おっしゃった環境にこだわるキーワード、将来像に関する部分で、環境といったときに将来像をテーマとして考えた場合、たきざわをイメージさせるような言葉として非常に適切であり、すごくいいと思うのですが、あえて削除して理由をお聞きしたい。</p> <p>あと、「縦断・横断的な施策を基本的施策の前に」という点はすごく</p>

	<p>取り組みやすいと思うのですが、P 8 1にあるような施策の進行管理の部分、P D C Aの展開の中で、基本的にこの形で回すことになるのですけれども、実際、D o、実施の部分で、具体的にどう展開していくのかという部分を考えたときに縦断・横断的な部分がすごくここにかかわってくると思うが、市民アンケートによると、「公共交通機関を充実してほしい」という回答があり、事業者からは「炭素ガス削減のための初期コスト」が課題になっている。</p> <p>これらを解決するために先ほどの「縦断・横断的な施策を基本的施策の前に」というのは非常に有効であると感じています。</p>
豊島会長	<p>それでは、「鈴の音」については、私のほうからご説明します。</p> <p>一番初めの素案、環境基本計画の副題に現行計画に使用されている「鈴の音云々」が取ってつけたようにあったのですよ。私はこの「環境の将来像」を謳うにあたって「鈴の音云々」というのは現行計画をつくった最後の最後、環境基本計画、これでは固いよね、何かキャッチフレーズ的なものないですかねえと行って、じゃあ、「鈴の音云々」どうでしょうか、ああ、それいいね、程度の重みだったのです。それだけの話だった。なので、それが改めて環境の将来像の中に「鈴の音云々」と聞きますと「違うよ！これはそんな重い意味ないよ。ただのキャッチフレーズだよ」と意見を言ったら、それがコンサルに伝わってこのように削除となった次第です。</p> <p>でも、先ほどの中島委員からの大事にすべきところ等のご意見を伺っていますと、上位で「それらを包括する言葉」としてひょっとしたら、先ほど「豊かに暮らす」とか言いましたけれども、「鈴の音云々」という表現もあるのかなあと思うようになりました。まあ、そういう経緯で外したということです。</p> <p>どうぞ事務局のほうから、そこも含めてどうぞ…</p>
事務局・田沼	<p>現行の環境基本計画で同じような部分があるのですが、そこには「環境の将来像」ということではなくて、「今大切にしたいこと」ということで「鈴の音云々」と謳っています。</p> <p>「今大切にしたいこと」と「環境の将来像」はイコールではないということで、前はキャッチフレーズ的な面があったものですから、ここは「将来像」とは違うということで差し替えしたものです。</p> <p>新計画においても、キャッチフレーズ的なものは残してもいいとは考えておりましたので、将来像の長い部分はキャッチフレーズにまわすとか、してもいいのかなと考えています。ここはちょっと検討させていただきたいと思います。</p> <p>あとP D C Aの関係ですが、環境基本計画以外の部分でも事業についてはそれを基本に回しています。</p>
民部田委員	<p>観光面を考慮した部分もあったかと思いますが、事業者代表の立場</p>

	<p>からして、そういった部分の配慮もあれば大変うれしい訳でして、よろしくをお願いします。</p> <p>あとPDCAの観点から、P18の企業の環境支援対策の部分で、「環境マネジメントシステム」といった非常に難しい取り組みが目標であったりした中で、情報提供以外が無かったので評価がDであったと、でP19では、アンケート調査の結果なのですが、4.1というパーセンテージなのですが、こうゆう施策を打ち出して、結果がこうであったと、要は経緯なのですが、経過の中でDの部分実施の部分じゃあそれを促すような取組をどうされたのかというのがすごく重要な部分になってくる。そういったことからすると、この計画の中に先ほどお話した「縦断・横断的な施策」を打ち出すことでここを重要視しているのだよということを示すことができる。計画作って結果だけ報告するのではなくて、実際のところまであえて示す必要があるのではないかと思います。</p>
豊島会長	<p>チェックまではしているが、では、ダメなところをどうしていくかということがないと解らないということですよ。そういう意味では現行計画の評価の活かし方というのが大きな課題になっていると思います。ここで現行計画は終わりですよということではなくて、ということですね。</p>
皆川委員	<p>環境の将来像についてなんですが、私も「鈴の音云々」は気に入っている文言であり、「鈴の音」があることで滝沢の馬のイメージ、馬コのイメージがパッと浮かぶなって滝沢らしいなって思うところで自分が住んでいるところをパッと思い浮かぶというのはあります。</p> <p>あと赤い字を削ったとして白い字がメインとなっているのですが、将来像ですし、固い、環境と共生し脱炭素をというよりは、白いほうの「岩手山麓の豊かな自然云々」のほうがスツとはいってきます。</p> <p>そうすると、そのためにどうするかって考えたときに右側の5つが大事だよなってなる気がします。</p> <p>その中で、1～5の順番のこともおっしゃっていたのですが、何のためにこれをするかって考えたとき、「自然と共生するために…」ではないと思うし、一番住民が大事にしようと思うものをこの中から選ぶとしたら、「安全・安心の生活環境」であり、将来あったらいいだろうな、そのために学ばなきゃいけないし、自然と共生することも学ばなきゃいけないし、資源を大切にする方法をみんなで考えたほうがいいだろうし、気候変動による災害などのためにどうしたらいいかということも考えなきゃいけないだろうなっていうふうになるのではないかと思います。</p>
豊島会長	<p>いま重要な提案がありました。より上位に掲げるべき言葉として、「安全・安心なまち」…あり得ますよね…それを上位に掲げてあと「脱</p>

	<p>炭素」もしかり、「生き物多様性・保全」もしかり、というように踏み込んでいける可能性はあると…「安全・安心」、よく使われてはいる言葉ですが、改めて将来像としてこの言葉を掲げると新たに重みをもってくるような、気がいたしました。ご意見頂戴いたしました。事務局のほうもそれを受け止めてください。</p> <p>あと、その前におっしゃった「豊かな自然を～」ということと「脱炭素」というのが、どっちがどう重いのかという…どっちにしてもその、より上位の将来像を描く言葉にはならないのではないかというご意見でした。それに代わって「安全・安心」という言葉、これは持ってこようと思えば持ってこられるものではないでしょうか。</p> <p>繰り返しになりますが、ほんとうに「安全・安心」、いろんなところで使われている言葉ではあります。将来像として「安全・安心」を掲げることで独自性を持たせることにもなると思いました。</p> <p>今のようなまとめでよろしいですか？</p>
皆川委員	<p>「安心・安全」って聞き流されそうな、あきたりの言葉ではあるので、なんかもっとそれと同様な見事な「ワード」が出てくればいいんですけど、でもやっぱり主婦目線で言ったら、子供を育てたり、介護をしたり、家族と一緒に過ごす市といったら安全・安心で、この下に書いてある快適な生活の環境がやっぱり維持されたら、絶対それがベストだよな、と思ってなくて、そのために大事なことがこの4以外の1～5までなのだろうなって母目線で思っています。</p>
高橋委員	<p>一番初めに評価を取り上げたとき、ごみの出し方を勉強しているところから始まって、もう今こういう状態、これは当たり前、それでそういうことではなく、どういうふうにして計画が出来ると、みんなの心にストンと入って「ああ、そうだ、こうしたほうがいいね」というような方向にもっていけるのかなっていう方法を、これから皆にどういうふうにお話ししようかなってちょっと悩んでいたところでした。</p> <p>婦人会では、柱の中に環境委員会っていうのがありまして、そこで様々な環境の勉強ができましたけど、いま皆川さんおっしゃったとおり、安全で子供たちに次の時代を渡す時に、このまちに住んでよかったと思うとこにまで行けるような環境計画であると思うので、ちょっと前回の元気はどこにいったのかと思いながらもう一回見直して本当に今みんな、何を求めているのかなとか方向性がわかればもっともっと反応があるだろうし、いい案も出るだろうし、これは決定ではない訳で皆さんの意見をまとめて作っていくものから、様々、迷いだしたりしているところにもどったかなと思っています。これから長い目で一緒に関わっていければと思います。</p>
豊島会長	<p>この計画を作らなければいけないという期限が、今年度中です。</p>

	<p>そのご活動においても今年度というのをひとつ区切りにして、更にそこから地道に続けていっていただきたいなと思いました。</p> <p>さきほどの「安全・安心」について、災害というのも入るでしょうし、健康面でも入るし…（他の委員からの挙手をうけて）、はい、どうぞ。</p>
皆川委員	<p>「安心・安全」の前に「誰もが…」とか、対象になるものが、主語というか、があるとなんかキャッチーかなと思いました。見出しにどうかなあ。市民が大事にされているな、という感じがします。</p>
豊島会長	<p>不思議ですね、「誰もが」は普通に使っている言葉ですが、「誰もが安心・安全なまち」となるとまた重みがでてきます。不思議ですねえ。</p> <p>言葉が独り歩きするというよりも、言葉をもとに市民がそっち方向に行く入口になっているのでしょうねえ～。</p> <p>ここで決める訳ではないですから、どうぞご自由に。</p>
渡邊委員	<p>岩手県と盛岡市のスローガン、ちょっと見比べていたのですが、岩手県は「多様で優れた環境と共生する脱炭素で持続可能ないわて」で、文言で全部理解できるのですが、対して盛岡市の「未来へとみんなが築く、自然と“わ”になるまち“もりおか”」です。「わ」で誤魔化しているというか、自然と「わ」になる盛岡ってなんなのだろうと思います。私にはわかりづらい。皆さんいろんな意見があるとは思いますが、キャッチフレーズとしてするのであれば、解りやすくないと、と思いました。</p> <p>あと重点プロジェクトについて、様々ご意見があると思うのですが、3の多様な年代間のパートナーシップ形成、これはぜひこのまま残して頂きたい。教育ってすごく大事で、幼稚園とか小学生の頃からの教育で意識が変わっていくと思います。どうしても年齢を重ねてしまうと、考え方が固まってしまって、新しい発想ができないというか、です。ですので若いうちからキチンと教育して皆さんの話を聞いてといったことがとても大切であると思うので、ここは残して頂きたい。</p>
豊島会長	<p>後半部分のパートナーシップですか。言い換えると環境に関する教育というか体験というかそういったものをしっかりと打ち出してほしいということでした。</p>
渡邊委員	<p>文言はともかく、教育というか体験というか、そういったものも外さないで、ここに組み入れて残していただきたい。</p>
豊島委員	<p>今のは、若者の教育というものについて、今の国会でも大変大きな論点になっているようであります。それは滝沢市においてもそうなのだな、と思います。その教育自体をちゃんとやっていければ、「安全・安心なまちが持続的に」実現できるのかな、と思いました。</p>
民部田委員	<p>P 6 8 に、小中学校と連携による云々とあるが、たきざわらしさという点では、大学が2つある。その大学との連携もいれていただいて、</p>

	<p>滝沢は学園都市だと思います。</p> <p>小中高校はどこにでもあるのですが、大学が2校もある市町村って滝沢市くらいだと思うので、その大学を前面に出した取組を少し出したらいいと思います。</p>
豊島会長	<p>滝沢市、行政のほうでもかなり大学との連携を重視してこれまでもやってきたと思いますので、それを緩めることなく、さらに強化してこの環境分野においても確保していただきたいということですね。</p>
皆川委員	<p>こういう会議の中に学生がいたほうがいいというイメージですか？</p>
民部田委員	<p>うーん、いれるかどうかまでは、あれですけども、やっぱり実践の場といいますか、そういったところには入ってきてもらったほうがいいのではないかと思っています。</p>
皆川委員	<p>私もそう思っていて、新しい発想というか、将来のもっと近くの世代を…</p>
民部田委員	<p>残念ながら、県立大学さんも盛岡大学さんも、卒業すると、盛大さんはそれなりに地元就職もありますが、県大さんはほとんど県外行ってしまうというところがあるのですが、滝沢の環境面のいいところを知ってもらって、滝沢っていいところなのだって認識してもらって…。</p> <p>商工会も今、地元就職っていうか、お仕事マッチングを展開しているのですが、そういった中で、滝沢をよく知っていただくという意味では、将来的に地元就職だったり、あるいはUターンだったりして滝沢に帰ってきてくれるとかですね、そういったところまで可能かどうかわかりませんが、そういった意味も含めて、取り組まれたらいかがでしょうかね。</p>
豊島会長	<p>そういう意味では、パートナーシップという言葉もなんかこう…捨てがたい…。</p>
下河原委員	<p>時間も押し迫っているので、簡便に申し上げます。この会は国語審議会ではない！ということ。言葉の表現だとか、そういうことではなくて、多少ずれたとしても、向かっている方向はここだ、というそれだけを出してもらいたい。沢山このように印刷物をもらって、ああだ、こうだとお役目立派だが、ひとつの言葉の言葉尻をとって、ああだという会ではない。どこへ向かっているかという…。</p> <p>それで、例え、一例を話して短く言います。ごみの減量化というのが、町内会とかいつも出てくるのですが、目標数字が出てこない。でAとかBとか、まあまあこのとおり。じゃあ、他県、他の都市、どこかという、一例ですが、南相馬の方では、レジ袋を有料化している。あなたの責任で袋を買って、それで努力しようという何か目標めいたものがある。岩手・盛岡で少し始まっているかどうか分かりませんが、</p>

	<p>言葉は減量というけれど、お年寄りも多くなって、燃えるものと金属の見境がない。それを挑戦するための物体、物がないと努力目標がないと自分では思っている。</p> <p>この2点だけです。</p> <p>なるべく言葉を発しないで帰ろうと思ったのですが、立派なことを皆さん、先生方、教授だとかいろいろいらっしゃいますが、多少ずれてもいい。方向さえはっきりすれば。チャグチャグ馬コでも岩手山でもいいのだけれど、それに負けないようなAとかBとかいう評価が出るようなプランを作っていこうというそういうふうをお願いしたい。以上です。</p>
豊島会長	<p>まさにこの審議会が方向性を出すためにご意見を頂戴しております。</p>
下河原委員	<p>もうひとつ、このプランつくって、プロジェクト、外注しているの？</p>
豊島委員	<p>この計画書自体が外注です。</p>
下河原委員	<p>外注ですか…。</p>
豊島委員	<p>そこに滝沢らしさ、私たちが大事にすべきことがなんなのかが入ってこなければ、まったく意味がないものです。</p>
下河原委員	<p>わかりました。外注ってことはお金払ってプラン作ってもらっているということなのよね。</p>
豊島委員	<p>そうです。</p>
下河原委員	<p>皆さんから頂いたお金で素材を作って、私たちがああだと言い、計画をしているのだね。まあ、外注が悪い訳じゃなくて、専門の方がいて、環境省とかいろいろなお役人もいるでしょうけれど、また東大系統の方もいるでしょうけども、岩手山も私たちのものだから、私たちの言葉を使ったっていいのです。ただ、目標だけ、何回も言うのだけれど、何のために集まって、何のためにこの書類を作っているのか。こう見ると、盛岡市だとかあちこち参考にしているのですが、施策体系がどうだとか、基本施策がこうとか…。あんまり分厚いやつはいらない。と思います。多少抜けてもいいのだ。後から補填すればいいのだ。補足というものもある。あるいは最後に追加すればいいのです。何かそうした先が見えることをやってほしいなということです。</p> <p>申し訳ないですが、言わせてもらいました。</p>
豊島会長	<p>繰り返しますが、滝沢環境審議会、滝沢の環境、どうありたいか、この方向性を出そうとしています。その時には、言葉というのはもう欠かせない、と考えております。</p>
下河原委員	<p>もう一つ、私、企業で卒業したのですが、問題解決という目標を立てます。どこに問題があるか。あとはどうやるか。あとは反省です。これは繰り返し、ラインで皆さんの大学終わっている方も全部解ると思うのですが、去年の結果、CだとかAだとか深く追求してほしい。</p>

	<p>そのうちまた次年度、お金を払って作るのでしょうかから、この忙しい世の中にこんなサイクルでいいのかな、と思います。ジレンマを感じます。以上です。あとは言いません。</p>
百目木副会長	<p>下河原委員から、ごみ減量化のことが出たので関連してお伺いします。</p> <p>第一回審議会は東京出張だったので欠席いたしました。会議録のほうは読ませていただきました。今回、初めての参加で内容をよく把握しておりませんが、今日資料に基づいて、説明を聞いた限り、非常に難しいと感じました。事前資料を見て、疑問に思ったことがありますので、特に自治会に関わる点についてですね、発言させていただきます。</p> <p>滝沢市環境年次報告書のP6にある進行管理指標、ごみ減量の推進、令和4年度及び9年度の目標値とは程遠い数値であるのが現状です。とありますが、この点についてどのように原因分析及び検証を行っているのか伺います。</p> <p>その前にですね、ごみ減量の取り組みが市民に浸透していないのではないのでしょうか。滝沢市も数年前からごみ減量化に取り組んでおられますが、自治会連合会においても自治会長の視察研修でごみ減量化に取り組んでいる県内及び県外の市町村、ごみ処分場の見学なども行っています。資源の活用を目的として、補助事業を活用して、現在、市内32自治会で50ヶ所のストックヤードが設置されております。滝沢市ではごみ減量化推進委員会を設置していろいろな施策とか取り組んでいます。自治会連合会からも2名委員を派遣しておりますが、最近活動が停滞している気がしています。ごみ減量化推進委員会の取り組み内容とか進捗状況を教えていただきたいと思います。</p> <p>もう一つ、平成30年度に滝沢市ごみ減量化行動計画（前期）を策定しておりますが、前期計画の検証を行ったうえでの令和5年度からの後期計画の策定はどのように進めているのでしょうか？</p>
事務局・田沼	<p>ごみ減量化については、環境組合で取り組む部分と市として取り組む部分がある訳ですが、市としては「周知」ということで、広報などで、「フードロス」などの記事を年に3回程度掲載しております。また実際、ごみといっても、水を切るだけでも減量化になるということで、自宅でできる「水切り」を十分にお願いますということで周知をしているという状況です。</p> <p>ごみ減量化計画につきましては、この環境基本計画の見直しと一緒に見直すこととしておりまして、環境基本計画がある程度固まった状態になったら、それに沿った形で策定していくこととなります。</p> <p>まずは柱となる環境基本計画をある程度策定し、その下にぶら下がるごみ減量化計画や行動計画を策定することになります。</p>

	<p>ごみ減量化委員会につきましては、年に2回程度開催されておりましたが、コロナの関係で、書面による開催ということで実施しております。また毎年視察を行っておりましたが、この2年は出来ないでおります。今年度からは再開する予定で今準備しているところです。</p>
事務局・武田	<p>ここ数年のところだと、コロナの関係で視察研修は減っておりますし、会議も書面会議ということで、話が遠くなったりして、委員おっしゃるとおり停滞気味に見えてしまったと思います。ただひとつ成果といえば、ずっと検討してきていただいた中で、矢巾町さんのまねで縮小版ではあるのですが、市役所防災庁舎の前にリサイクルボックスを設置させていただいて、すぐに満タンになってしまって環境課で対応しきれなくなるくらい回収され始めてきておりましたので、地味な活動ながらもそういった形で結実している部分もあることはあります。</p>
百目木副会長	<p>ひとつ肝心なのは、年次報告書の進行管理指標、ごみ減量推進、令和4年度及び9年度の目標値とは程遠い数値であるのが現状ですという記述がある。このことについては、なぜそうなっているのか、なぜこんな低い数値になっているのか、そういった検証はどうなっているのでしょうか。</p>
事務局・武田	<p>さまざまいろんなご意見を頂戴している中で、市民の皆さんに周知あるいは承知していただく関係で、いろんな活動、今こういった状況の中で出来ることはなんだろうといったことが、リサイクルボックス設置などといった地味ではあるのですが、少しずつ結実しつつあるものもあるということです。</p> <p>あとこれは全く根拠のない話ですが、ですのでこういう場で話すのはどうかと思うのですが、滝沢市はもちろん高齢化は進んでいますが、大学が2つもある関係もあり、若い方がすごく多く住んでらっしゃるとい部分がございます。もちろん、不便だから1年もすると盛岡に出てしまうというはあるのですが、若い人や学生さんが多いとごみの量が増加する傾向にあるらしいです。もちろん、すべての学生さんや若い方が悪いといっている訳ではなくて、そういう傾向にあるという根拠のない話です。そんな中で令和4年度、9年度の目標値には程遠いですが、毎年少しずつ減ってはいるのもまた事実です。だからいいというつもりは毛頭ないです。ご指摘のとおり真摯に受け止めて考えなくてはならないのですが、「目標にほどとおい」という現実を重く受け止めながら、自治会さんはじめ、市民の皆様のご協力をいただいたおかげで少しずつ減っているという評価をいただいたのかな、と考えております。</p>
百目木委員	<p>まあ、ごみ減量化の取り組みは、継続的にやっていかなければならないと思います。こんどのこの基本計画の方には、P48に少しのせ</p>

	<p>ているだけで、具体的な数値目標とか示されていないのですが、もう少し具体的に組みんでいくべきではないでしょうか？そういった姿勢を示して頂きたいと思います。</p>
事務局・田沼	<p>ごみの減量化については、P47に一人一日当たりの家庭ごみ排出量ということで、目標を掲げているところでございます。</p> <p>まだ確定してはいないのですが、ごみ（処理）の広域化が進むということで、また法律が変わりプラスチックの別回収などがあり、現在、分別収集の見直しをかけているところです。ただ、いきなり変更して市民のみなさんもすぐ対応できる訳ではないので、準備期間を設けながらやるということで説明もしなければならぬと思っています。自治会を周って説明会をやってから分別回収を進めるということで進めているところです。</p>
豊島会長	<p>それでは予定時間がせまっております。皆様からご意見を頂戴するのはここまでといたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>最後に基本計画は、どうしても分厚くなります。でも必要なのですよ！それでそれが分厚くて何？と言われたいためにも、ここだけは見てねという、つまり将来像と重点、そこだけははっきり見える形で示していただければ、分厚いよというご心配は、軽くなるのではないかなと思うのです。</p> <p>そこで審議会の意見も今頂戴しました。それから先に進行管理委員会でも意見頂戴しました。現在庁内でも各部署から意見を頂戴しているということでもあります。</p> <p>ここからはもう「コンサル案」じゃなくて「環境課案」として次は出していただく。環境課として皆さんの意見を聞いたうえで、これと、これとこれ！これを大事にしたい！というそれを表現する言葉としてはこれだ！将来像を示すのはこれだ！これを環境課案として、次は出していただきたい！</p> <p>もう今年度末まで時間がかぎられておりますので、そこはもう時間をムダにすることなく、仕上げていただきたい。最後に要望いたします。以上です。</p>
事務局・田沼	<p>ありがとうございました。皆様の意見を頂戴しながら、わかりやすいもの。皆様が見やすいものを目指して引き続き取り組んでまいりますのでよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それではこれを持ちまして第二回環境審議会を閉じたいと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>